【販売用資料】月次レポート

ＧＣＩエンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日：2015年 9月25日
作成基準日：2017年 9月29日
決算日　　：毎年9月25日
（休業日の場合は翌営業日）
信託期間　：原則として無期限

お知らせ

『Morningstar Award “Fund of the Year 2016”
(ファンド オブ ザ イヤー 2016)』において
ＧＣＩエンダウメントファンド（成長型）が

優秀ファンド賞（バランス（安定成長型）部門）

を受賞しました。



Morningstar Award “Fund of the Year 2016”は過去の情報に基づくものであり、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。また、モーニングスターが信頼できると判断したデータにより評価しましたが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。著作権等の知的所有権その他一切の権利はモーニングスター株式会社並びにMorningstar, Inc. に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。

当賞は国内追加型株式投資信託を選考対象として独自の定量分析、定性分析に基づき、2016 年において各部門別に総合的に優秀であるとモーニングスターが判断したものです。バランス(安定成長)型 部門は、2016 年 12 月末において当該部門に属するファンド 253 本の中から選考されました。

GCI Asset Management

ＧＣＩエンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日：2015年 9月25日
作成基準日：2017年 9月29日
決算日　　：毎年9月25日
（休業日の場合は翌営業日）
信託期間　：原則として無期限

ファンドマネージャーのコメント

＜運用の基本スタンス＞

さまざまな市場環境を乗り越えて、長期間にわたるすばらしい運用実績を残してきたエンダウメント（大学財団）型の投資戦略をお手本に、オルタナティブ投資を積極的に活用したグローバル投資を行います。リスクとリターンの源泉を分散・多様化するとともに、運用コストにも注意を払い、運用資産の長期的成長を効率的に目指します。

「GCIエンダウメントファンド」の運用手法はシンプルかつ頑健（Robust）です。原則として年一回、基本資産配分（ターゲット・ポートフォリオ）を決定した上で、適宜リバランスを実行し、資産配分を維持します。また、長期スタンスで円資産のリスク・リターン効率化を図るため、為替リスクは原則としてヘッジします。

基本資産配分（ターゲット・ポートフォリオ）は、想定リスクを成長型で年率8%、安定型で年率5%にセットし、対象資産の流動性やキャパシティ（市場規模）などを吟味して選択した投資対象ユニバースの中で、最良の期待リターンとなるように配分比率を決定します。その時々の市場動向やムードなどに振り回されず、取引コストを抑制しながら、一定のリスクを効率的に取り続けるという、ブレのない運用姿勢を貫きます。

＜ビッグ・ピクチャーと基本資産配分＞

GCIエンダウメントファンドの決算日である2016年9月26日に、初の基本資産配分の見直しを行いました。基本資産配分の前提となるビッグ・ピクチャーは、10年程度の時間軸でマクロ環境を俯瞰したものですが、次の通り変更ありません。

第一に、21世紀直前に本格化したグローバル化という世界史的イベントに伴い、ディスインフレ環境が続いています。グローバル化の恩恵を最大限に享受してきた新興国経済の急成長が一段落したこともあり、このディスインフレ環境は長期化するものと考えています。一方、ディスインフレ環境の結果として進行した金利低下も、先進国圏ではゼロ金利という限界に迫っており、金融危機後の金利低下一辺倒の状況に変化の兆しがみられることには留意を要します。

第二に、新興国圏の成長速度が大きく鈍化した結果、先進国圏と新興国圏の乖離（デカップリング）が金融市場に影響を与える可能性があります。とくに、米国経済が相対的に好調であるとのコンセンサスの下、2014年からドル高が進んでいます。ドル高は、商品市況と、ドル安局面でその恩恵を存分に享受してきた新興国経済にとって、強い逆風となります。1997年のアジア通貨危機がその典型例です。人民元をドルに連動させてきた中国経済は、景気循環や人口動態など国内固有の要因に加えて、ドル高という大きな負荷が二重にかかっていると考えています。

以上のビッグ・ピクチャー自体は今回も不変ですが、先進国圏の金利低下が続き、各中央銀行の金融緩和政策が長期化しています。市場の期待を裏切らない金融政策が、歴史的高値圏にある債券市場・株式市場を支えていますが、換言すれば、市場の歪みが静かに拡大している可能性も否定できません。日欧の長期金利はマイナス金利圏にあることを踏まえ、グローバル債券への配分を引き下げる一方、資本市場が大きく崩れるようなイベントリスクに耐性が期待できるオルタナティブ戦略への配分を引き上げました。安定型では債券の代替として若干のキャッシュを保有することも含めて、ダウンサイドに対してより慎重なポートフォリオ配分としています。

ＧＣＩエンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日：2015年 9月25日
作成基準日：2017年 9月29日
決算日　　：毎年9月25日
（休業日の場合は翌営業日）
信託期間　：原則として無期限

＜今月を振り返って＞

GCIエンダウメント・ファンドは、設定から2周年を迎えました。期待リスクをまず設定して、その範囲内でリターンを極大化し、安定的効率的な長期運用を目指すという枠組みですが、実現リスク（標準偏差）は成長型5.8%（期待8%）、安定型4.1%（期待5%）、シャープレシオは成長型1.13、安定型0.94と、目標に沿った運用実績を上げました。さらに、資産保全を最優先とする運用手法に徹した結果、最大下落率5%前後と、株式の5分の一、国債並みにとどめています。また、投資家のみなさまのご支援の結果、24か月間連続で資金流入超（流出月なし）となり、着実に成長しています。

長期投資で最も避けたいのは、市場環境が悪化して、大きなドローダウンが生じたときに、耐え切れずに損切りしてしまうことです。ポートフォリオが適切であれば、一時的な時価上の損失はいずれ回復しますが、往々にして、2008年のようなひどい状況になればなるほど、ポートフォリオの損失が大きくなればなるほど、計り切れない心理的負担に耐えられなくなりがちです。リスクをとる以上、一時的なマイナスが生じるのは当然ですが、それを極力抑制することは長期資産形成にとって大切だと考えています。

当月は、毎年一度の基本資産配分の見直しを行い、成長型安定型ともに現状維持としました。既述のビッグ・ピクチャー自体は不変ですが、2008年の金融危機以降一貫して続いてきた中央銀行の金融緩和政策に変化が見られます。この間、債券・株式を含むほとんどの資産価格が上昇し続ける特異な環境でしたが、どのような影響があるのか注視しています。

オルタナティブ投資を専門とする当社の認識では、世界中の利回りが低下し、信用スプレッドがつぶれ、実物など低流動性資産にも大量の資本が向かった結果、流動性プレミアムも失われました。今春以降はボラティリティも過去経験したことのない水準まで下落しています。常識的には、大きな反動・調整が入ってもおかしくありません。一方、情報技術革新の大波はグローバルな実態経済に大きなインパクトを与えようとしています。高値圏を更新している米国株式市場のバリュエーションに対しては警戒感も根強いのですが、こうした警戒感が払拭されるような株高に対する肯定的センチメントが醸成されない限り、むしろ循環的な株高が継続するのかもしれません。より詳しくは、各地で開催している運用報告会にぜひご参加ください。

当戦略は、どのような市場環境であっても、下落リスクを想定の範囲内に抑制しながら、長期的安定的な資産価値の成長を目指してまいります。



ファウンダー・代表取締役CEO
山内英貴

GCI Asset Management

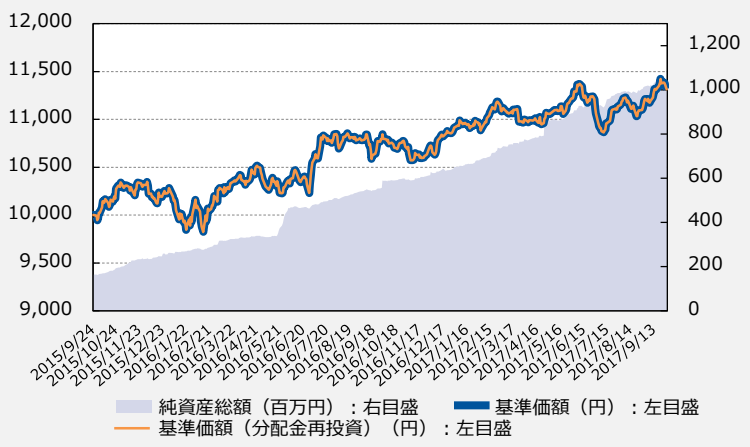
ＧＣＩエンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日：2015年 9月25日
作成基準日：2017年 9月29日
決算日　　：毎年9月25日
（休業日の場合は翌営業日）
信託期間　：原則として無期限

ＧＣＩエンダウメントファンド（成長型）

基準価額の推移



※ データは、当初設定日から作成基準日までを表示しています。
※ 基準価額（分配金再投資）は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
※ 基準価額は、信託報酬控除後の値です（後述のファンドの費用をご覧ください。）。

基準価額、純資産総額

	当月末	前月末
基　準　価　額	11,315円	11,193円
純 資 産 総 額	1,047百万円	1,015百万円

期間別騰落率

	騰落率
１ヵ月	+1.09%
３ヵ月	+2.29%
６ヵ月	+2.90%
１年	+4.79%
３年	－
設定来	+13.15%

※ ファンドの騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。

分配の推移（１万口当たり、税引前）

設定来分配金合計額　　０円

決　算　期	2016年9月期	2017年9月期	－
分　配　金	0円	0円	－円

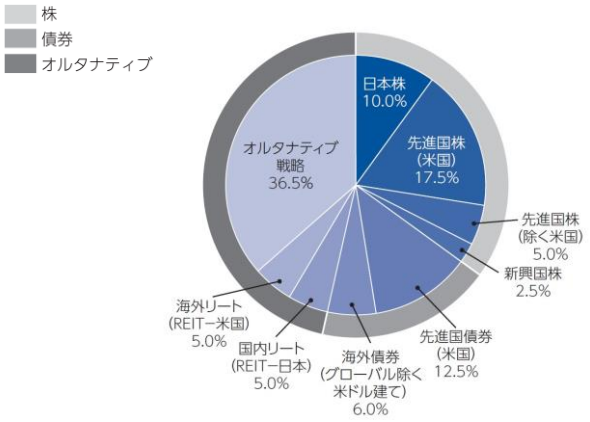
※ 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、または分配金が支払われない場合があります。

参考指標

	ファンド	東証株価指数（TOPIX）	NOMURA-BPI総合インデックス
年率リターン	+6.4%	+11.1%	+1.8%
標準偏差	5.7%	21.0%	2.5%
下方偏差	3.7%	16.5%	2.0%
シャープレシオ	1.13	0.53	0.73
ソルティノレシオ	1.72	0.68	0.93
最大ドローダウン	-5.1%	-25.4%	-4.5%
相関	—	0.58	-0.02

※参考指標は全て円ベース。当ファンド設定来の期間で算出。年率リターン・標準偏差・下方偏差は1年を250日として計算。時点：2017年9月29日。

基本資産配分（作成基準日時点）



資産クラス	基本資産配分比率
日本株	10.0%
先進国株（米国）	17.5%
先進国株（除く米国）	5.0%
新興国株	2.5%
先進国債券（米国）	12.5%
海外債券（グローバル除く米ドル建て）	6.0%
国内リート（REIT－日本）	5.0%
海外リート（REIT－米国）	5.0%
オルタナティブ戦略	36.5%
合計	100.0%

GCI Asset Management

ＧＣＩエンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日：2015年 9月25日
作成基準日：2017年 9月29日
決算日　　：毎年9月25日
（休業日の場合は翌営業日）
信託期間　：原則として無期限

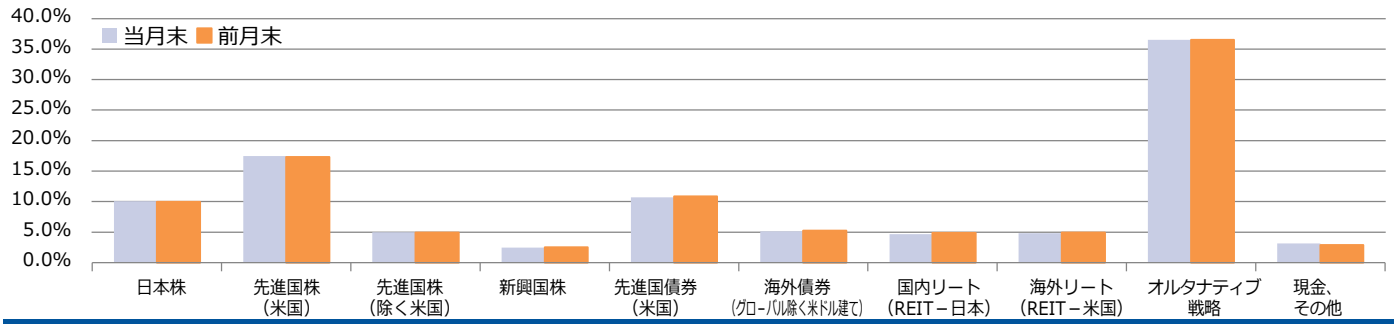
ＧＣＩエンダウメントファンド（成長型）

投資対象ファンド（投資信託証券）の状況

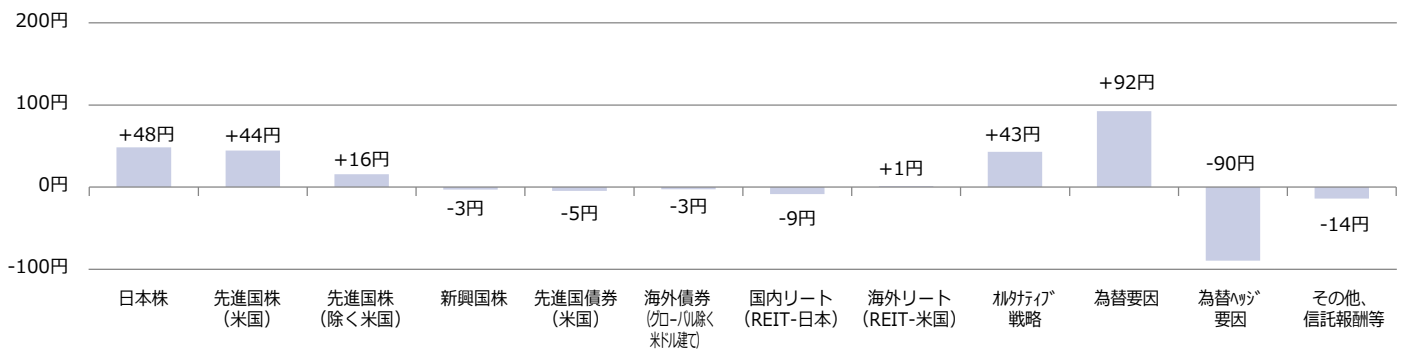
資産クラス	投資対象ファンド（投資信託証券）			
名称	名称 ベンチマーク	配分比率	月間騰落率	月間寄与額（概算値）
日本株	TOPIX連動型上場投資信託	10.1%	+4.3%	+48
	TOPIX（東証株価指数）	－	+4.2%	
先進国株（米国）	バンガード・S&P500 ETF	17.5%	+2.3%	+44
	S&P500指数	－	+2.2%	
先進国株（除く米国）	バンガード・FTSE先進国市場（除く米国）ETF	5.0%	+2.8%	+16
	FTSE先進国オールキャップ（除く米国）インデックス	－	+2.6%	
新興国株	バンガード・FTSE・エマージング・マーケットETF	2.4%	-1.2%	- 3
	FTSEエマージング・マーケット・オールキャップ（含む中国A株）インデックス	－	-1.7%	
先進国債券（米国）	バンガード・米国トータル債券市場ETF	10.7%	-0.4%	- 5
	ブルームバーグ・バークレイズ米国総合浮動調整インデックス	－	-0.5%	
海外債券（グローバル除く米ドル建て）	バンガード・トータル・インターナショナル債券ETF（米ドルヘッジあり）	5.1%	-0.4%	- 3
	ブルームバーグ・バークレイズ・グローバル総合（米ドル除く）浮動調整 RIC基準インデックス（米ドルヘッジベース）	－	-0.7%	
国内リート（REIT－日本）	NEXT FUNDS 東証REIT指数連動型上場投信	4.7%	-1.6%	- 9
	東証REIT指数	－	-1.5%	
海外リート（REIT－米国）	バンガードREIT ETF	4.8%	+0.3%	+1
	MSCI US REIT・インデックス	－	+0.2%	
オルタナティブ戦略	GCIシステマティック・マクロファンド クラスA	15.6%	+2.4%	+43
	ベンチマークなし	－	－	
	GCIマネープールマザーファンド	16.8%	0.0%	0
	ベンチマークなし	－	－	
	現金、コール・ローン等	4.1%	0.0%	0
現金、その他	現金、コール・ローン等	3.2%	0.0%	0

※ 上記は、当ファンドの組入対象であるそれぞれの投資対象ファンド（投資信託証券）とその基準価額の月間騰落率です。当ファンドに対する寄与額は概算値です。
上記の月間騰落率の計算に用いる基準価額は、分配金（税引前）を再投資したものです。
上記の月間騰落率の計算に用いる基準価額は、信託報酬控除後の値です。
上記の月間騰落率は、ＧＣＩエンダウメントファンド（成長型）の基準価額の算出方法に合わせて、円ベースに換算した数値です。

配分比率



各資産の寄与額（概算）



GCI Asset Management

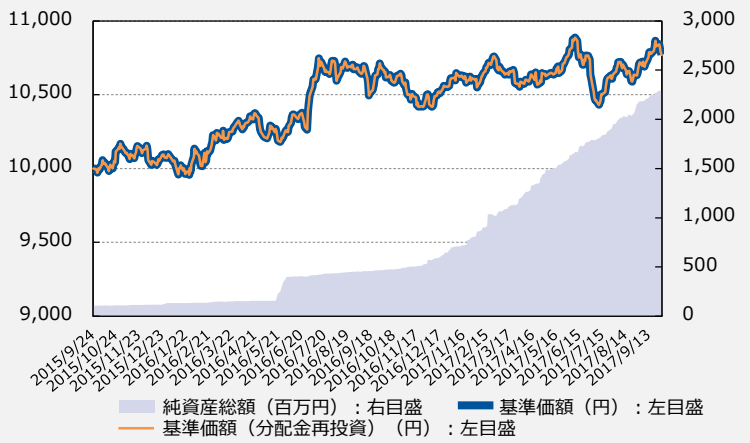
ＧＣＩエンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日：2015年 9月25日
作成基準日：2017年 9月29日
決算日　　：毎年9月25日
（休業日の場合は翌営業日）
信託期間　：原則として無期限

ＧＣＩエンダウメントファンド（安定型）

基準価額の推移



※ データは、当初設定日から作成基準日までを表示しています。
※ 基準価額（分配金再投資）は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
※ 基準価額は、信託報酬控除後の値です（後述のファンドの費用をご覧ください。）。

基準価額、純資産総額

	当月末	前月末
基準価額	10,770円	10,708円
純資産総額	2,276百万円	2,179百万円

期間別騰落率

	騰落率
1ヵ月	+0.58%
3ヵ月	+1.53%
6ヵ月	+1.72%
1年	+0.74%
3年	－
設定来	+7.70%

※ ファンドの騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。

分配の推移（１万口当たり、税引前）

設定来分配金合計額　　０円

決算期	2016年9月期	2017年9月期	－
分配金	0円	0円	－円

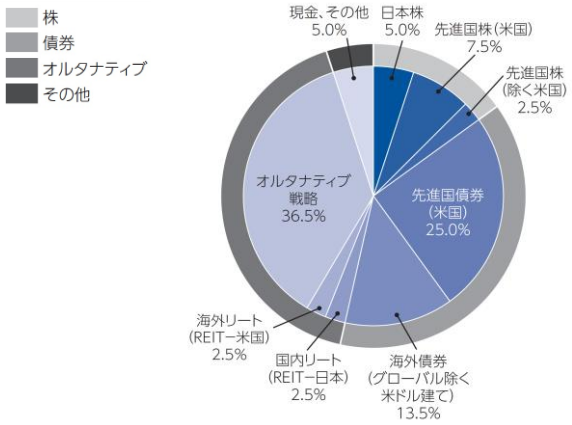
※ 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、または分配金が支払われない場合があります。

参考指標

	ファンド	東証株価指数（TOPIX）	NOMURA-BPI総合インデックス
年率リターン	+3.8%	+11.1%	+1.8%
標準偏差	4.1%	21.0%	2.5%
下方偏差	2.7%	16.5%	2.0%
シャープレシオ	0.94	0.53	0.73
ソルティノレシオ	1.40	0.68	0.93
最大ドローダウン	-4.2%	-25.4%	-4.5%
相関	—	0.33	0.03

※参考指標は全て円ベース。当ファンド設定来の期間で算出。年率リターン・標準偏差・下方偏差は1年を250日として計算。時点：2017年9月29日。

基本資産配分（作成基準日時点）



資産クラス	基本資産配分比率
日本株	5.0%
先進国株（米国）	7.5%
先進国株（除く米国）	2.5%
先進国債券（米国）	25.0%
海外債券（グローバル除く米ドル建て）	13.5%
国内リート（REIT－日本）	2.5%
海外リート（REIT－米国）	2.5%
オルタナティブ戦略	36.5%
現金、その他	5.0%
合計	100.0%

GCI Asset Management

ＧＣＩエンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日：2015年 9月25日
作成基準日：2017年 9月29日
決算日　　：毎年9月25日
（休業日の場合は翌営業日）
信託期間　：原則として無期限

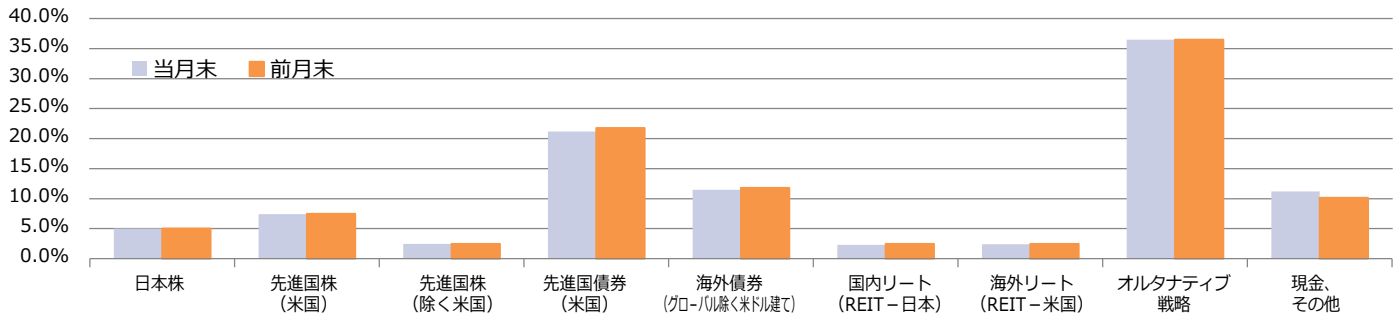
ＧＣＩエンダウメントファンド（安定型）

投資対象ファンド（投資信託証券）の状況

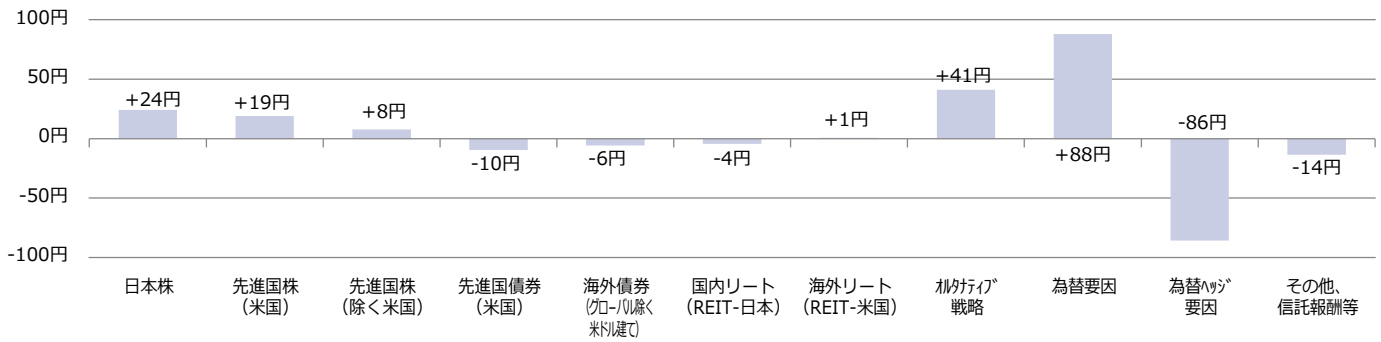
資産クラス	投資対象ファンド（投資信託証券）			
名称	名称 ベンチマーク	配分比率	月間騰落率	月間寄与額（概算値）
日本株	TOPIX連動型上場投資信託	5.0%	+4.3%	+24
	TOPIX（東証株価指数）	－	+4.2%	
先進国株（米国）	バンガード・S&P500 ETF	7.4%	+2.3%	+19
	S&P500指数	－	+2.2%	
先進国株（除く米国）	バンガード・FTSE先進国市場（除く米国）ETF	2.5%	+2.8%	+8
	FTSE先進国オールキャップ（除く米国）インデックス	－	+2.6%	
先進国債券（米国）	バンガード・米国トータル債券市場ETF	21.2%	-0.4%	- 10
	ブルームバーグ・バークレイズ米国総合浮動調整インデックス	－	-0.5%	
海外債券（グローバル除く米ドル建て）	バンガード・トータル・インターナショナル債券ETF（米ドルヘッジあり）	11.5%	-0.4%	- 6
	ブルームバーグ・バークレイズ・グローバル総合（米ドル除く）浮動調整 RIC基準インデックス（米ドルヘッジベース）	－	-0.7%	
国内リート（REIT－日本）	NEXT FUNDS 東証REIT指数連動型上場投信	2.3%	-1.6%	- 4
	東証REIT指数	－	-1.5%	
海外リート（REIT－米国）	バンガードREIT ETF	2.4%	+0.3%	+1
	MSCI US REIT・インデックス	－	+0.2%	
オルタナティブ戦略	GCIシステマティック・マクロファンド クラスA	15.7%	+2.4%	+41
	ベンチマークなし	－	－	
	GCIマネープールマザーファンド	20.8%	0.0%	0
	ベンチマークなし	－	－	
現金、その他	GCIマネープールマザーファンド	2.5%	0.0%	0
	ベンチマークなし	－	－	
	現金、コール・ローン等	8.7%	0.0%	0

※ 上記は、当ファンドの組入対象であるそれぞれの投資対象ファンド（投資信託証券）とその基準価額の月間騰落率です。当ファンドに対する寄与額は概算値です。
上記の月間騰落率の計算に用いる基準価額は、分配金（税引前）を再投資したものです。
上記の月間騰落率の計算に用いる基準価額は、信託報酬控除後の値です。
上記の月間騰落率は、ＧＣＩエンダウメントファンド（安定型）の基準価額の算出方法に合わせて、円ヘッジベースに換算した数値です。

配分比率



各資産の寄与額（概算）



GCI Asset Management

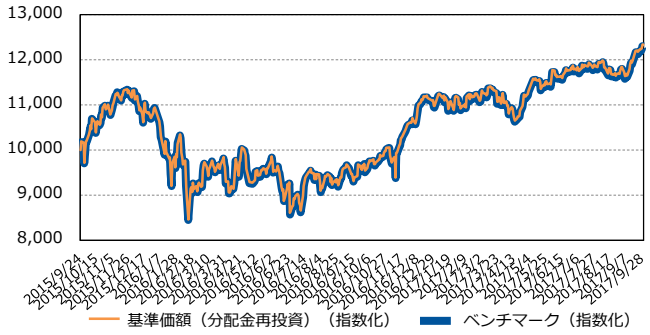
ＧＣＩエンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

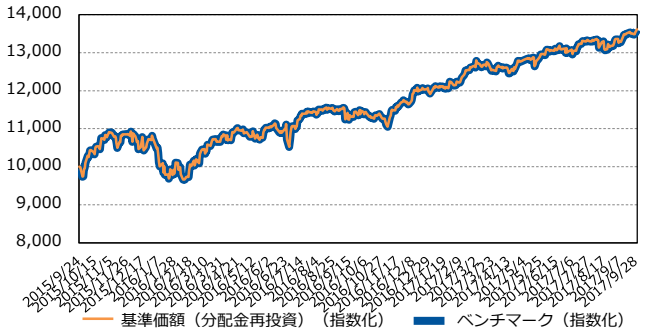
当初設定日：2015年 9月25日
作成基準日：2017年 9月29日
決算日　　：毎年9月25日
　　(休業日の場合は翌営業日)
信託期間　：原則として無期限

投資対象ファンド（投資信託証券）－上場投資信託（ETF）の基準価額推移

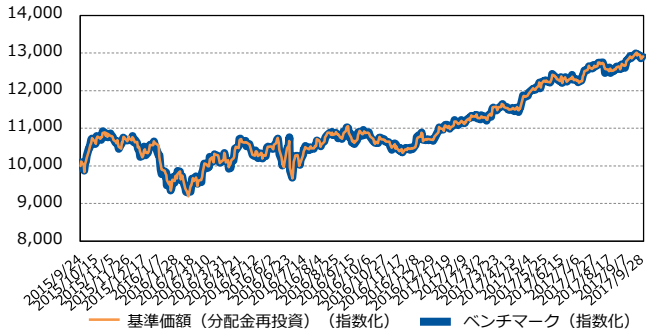
（１）TOPIX連動型上場投資信託



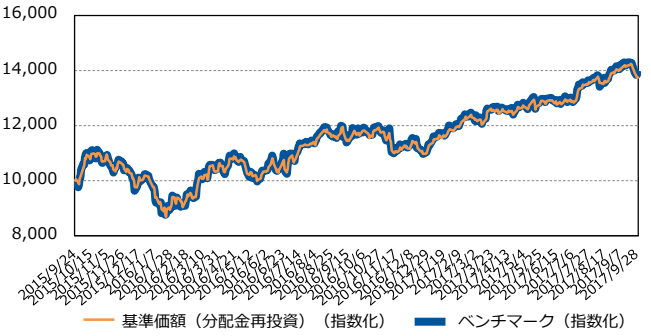
（２）バンガード・S&P500 ETF



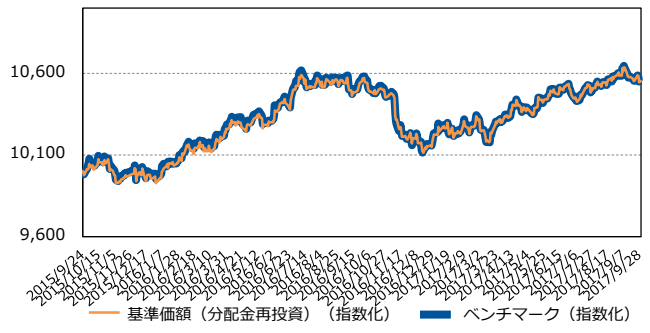
（３）バンガード・FTSE先進国市場（除く米国）ETF



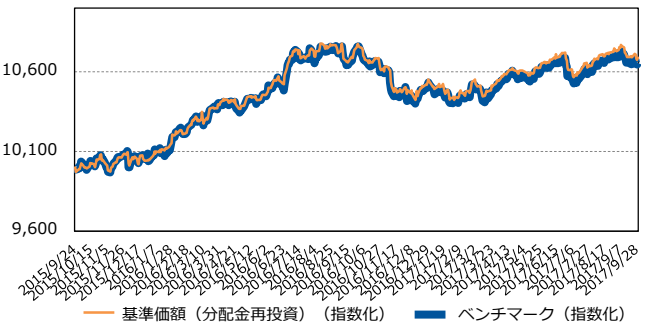
（４）バンガード・FTSE・エマージング・マーケッツETF



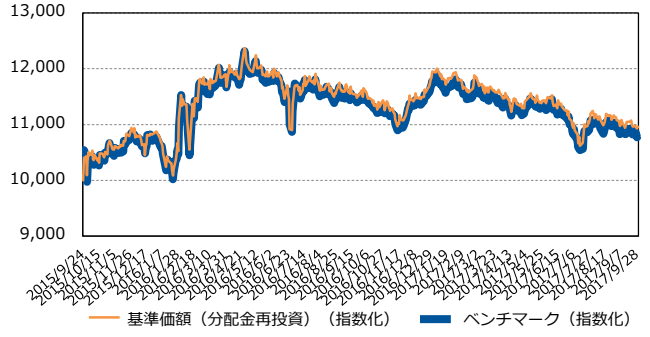
（５）バンガード・米国トータル債券市場ETF



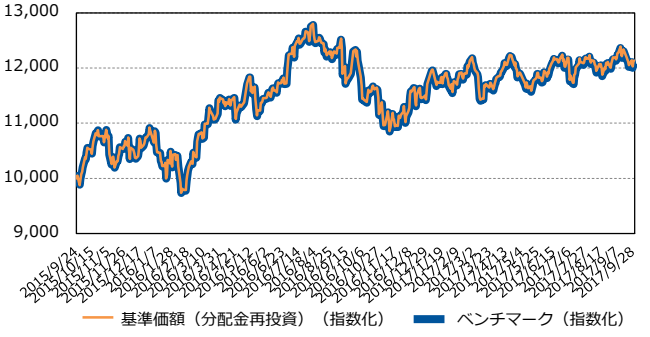
（６）バンガード・トータル・インターナショナル債券ETF（米ドルヘッジあり）



（７）NEXT FUNDS 東証REIT指数連動型上場投信



（８）バンガードREIT ETF



※ 上記グラフは、当ファンドの組入対象であるそれぞれの上場投資信託（ETF）の基準価額を、組入開始日を10,000として指数化し、作成基準日までを表示したものです。
※ 基準価額（分配金再投資）は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
※ 基準価額は、信託報酬控除後の値です。

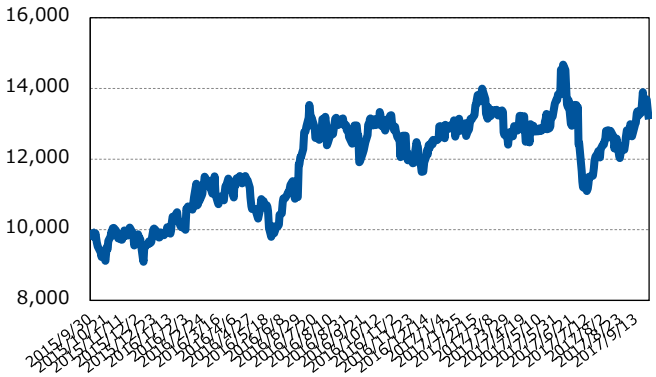
GCI Asset Management

ＧＣＩエンダウメントファンド（成長型／安定型）
追加型投信／内外／資産複合

当初設定日：2015年 9月25日
作成基準日：2017年 9月29日
決算日　　：毎年9月25日
　　(休業日の場合は翌営業日)
信託期間　：原則として無期限

投資対象ファンド（投資信託証券）－ＧＣＩシステマティック・マクロファンド クラスAの資産の状況

基準価額（指数化）の推移



期間別騰落率

	ファンド
１ヵ月	+2.44%
３ヵ月	+5.39%
６ヵ月	+2.89%
１年	-0.18%
３年	-
組入開始来	+31.27%

※ 上記グラフは、「ＧＣＩシステマティック・マクロファンド クラスA」の当ファンド計上日ベースの基準価額を、当ファンドへの組入開始日を10,000として指数化し、作成基準日までを表示したものです。
※ 基準価額は、信託報酬控除後の値です。

ポートフォリオの状況

当月も従来通り独自開発の動的ポートフォリオ・モデルに基づき、世界各国市場の株式市場・債券市場・為替市場へ分散投資を行いました。

当月は+2.44%のリターンとなりました。引き続きグローバル金融市場で最も強い動きである米国株式の上昇の収益化を目指すポジションを主要な収益ドライバーとしつつ、資産間の相関関係を活用して株価の下落時に収益をあげることが期待されるポジションが組み込まれました。当月は米国・日本の株式が強く上昇し、収益に貢献しました。これらの株式ポジションのダウンサイドリスクを抑制する役割が期待された通貨や債券のポジションはマイナスに寄与したものの、ポジション管理が機能して株式の上昇を享受することができました。

足下の米国株式の堅調さを背景に、当戦略の主要なポジションは引き続き米国株式の買い持ちとなり、通貨や債券ポジションが活用されて米国株式が下落する際のダウンサイドリスクが抑制されます。主要な収益ドライバーとしての米国株式ポジションはこれまでと変化はありませんが、資産間の相関構造が変化してきているためにダウンサイドリスクを抑制するためのポジションが変更されてきています。このポジション変更を通じて、引き続き効率的にダウンサイドリスクが抑制されながら株式の上昇を収益化するポートフォリオが継続される見通しです。

文責：クオンツリサーチ&ストラテジー　チーム
ポートフォリオ・マネジャー　山本　匡

参考指標

	ＧＣＩシステマティック・マクロファンド クラスA	HFRX Global Hedge Fund	HFRX Macro: Systematic Diversified CTA
年率リターン	+14.9%	+1.7%	-2.5%
標準偏差	26.9%	3.2%	7.7%
下方偏差	20.1%	2.5%	5.3%
シャープレシオ	0.55	0.54	N/A
ソルティノレシオ	0.74	0.70	N/A
最大ドローダウン	-24.4%	-6.8%	-3.7%
相関	－	0.18	0.52

※参考指標は全て円ベース。当ファンドへの組入開始来の期間で算出。年率リターン・標準偏差・下方偏差は1年を250日として計算。時点：2017年9月29日。リスクフリー・レート＝LIBOR日本円1カ月。HFインデックスはドル円金利差(LIBOR　1カ月)を勘案し円ベースで算出。シャープレシオ／ソルティノレシオがマイナス値の場合はN/Aで表示。

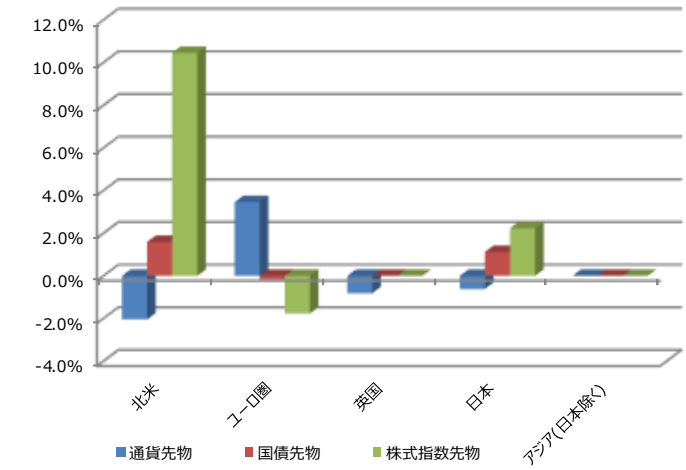
GCI Asset Management

ＧＣＩエンダウメントファンド（成長型／安定型）

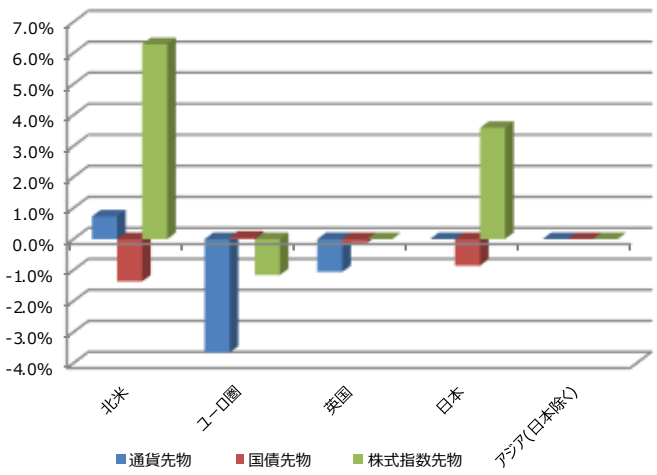
追加型投信／内外／資産複合

当初設定日：2015年 9月25日
作成基準日：2017年 9月29日
決算日　　：毎年9月25日
(休業日の場合は翌営業日)
信託期間　：原則として無期限

当月末時点でのポートフォリオ



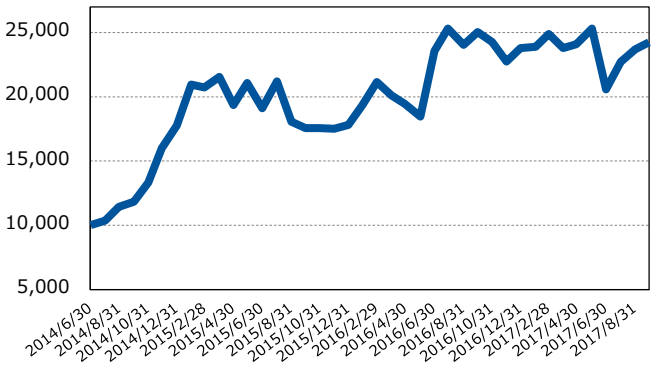
損益内訳



※ 上記ポートフォリオ断面のグラフは、ポジションを構築するにあたって差し入れる証拠金の対純資産総額比率です。マイナスはショートポジションを意味します。証拠金はリスク見合いで差し入れるものであるため、当該指標はポートフォリオにおけるリスクをより実態に近い形で表すものと考えられています。

<ご参考> ＧＣＩシステマティック・マクロファンドの設定来の運用実績

基準価額（指数化）の推移



※ 上記グラフは、「ＧＣＩシステマティック・マクロファンド クラスS」の基準価額を、同ファンドの運用開始日を10,000として月次ベースで指数化したものです。クラスAはクラスSと同様の運用を行っていますが、報酬体系等が異なるため、単純な比較はできません。
※ 基準価額は、信託報酬控除後の値です。

参考指標

	ＧＣＩシステマティック・マクロファンド クラスS	HFRX Global Hedge Fund	HFRX Macro: Systematic Diversified CTA
年率リターン	+31.3%	+0.2%	+0.5%
標準偏差	31.7%	3.6%	7.4%
下方偏差	18.1%	2.8%	4.2%
シャープレシオ	0.99	0.07	0.06
ソルティノレシオ	1.73	0.09	0.11
最大ドローダウン	-18.70%	-8.93%	-9.26%
相関	–	0.06	0.80

※参考指標は全て円ベース。「ＧＣＩシステマティック・マクロファンド クラスS」の設定来の期間における月次リターンを用いて算出。年率リターン・標準偏差・下方偏差は1年を12か月として計算。時点：2017年9月29日。リスクフリー・レート＝LIBOR日本円1カ月。HFインデックスはドル円金利差(LIBOR　1カ月)を勘案し円ベースで算出。シャープレシオ／ソルティノレシオがマイナス値の場合はN/Aで表示。

GCI Asset Management

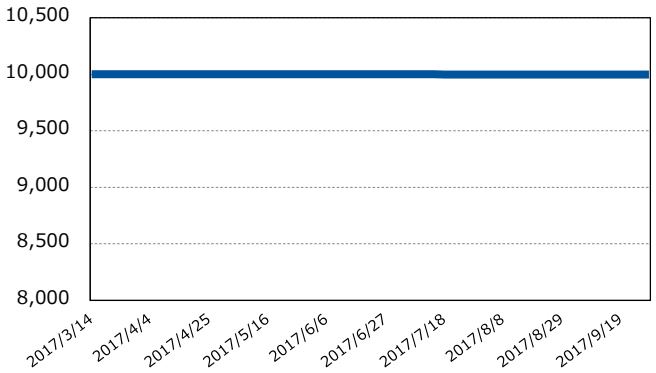
ＧＣＩエンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日：2015年 9月25日
作成基準日：2017年 9月29日
決算日　　：毎年9月25日
（休業日の場合は翌営業日）
信託期間　：原則として無期限

投資対象ファンド（投資信託証券）－ＧＣＩマネープールマザーファンドの状況

基準価額（指数化）の推移



期間別騰落率

	ファンド
１ヵ月	0.00%
３ヵ月	-0.01%
６ヵ月	-0.01%
１年	-
３年	-
組入開始来	-0.01%

※ 上記グラフは、「ＧＣＩマネープールマザーファンド」の基準価額を、同ファンドの運用開始日を10,000として月次ベースで指数化したものです。
※ 基準価額は、信託報酬控除後の値です。

2017年4月より、GCIマネープールマザーファンドへの投資を開始致しました。

ＧＣＩエンダウメントファンド（成長型／安定型）
追加型投信／内外／資産複合

当初設定日：2015年 9月25日
作成基準日：2017年 9月29日
決算日　　：毎年9月25日
（休業日の場合は翌営業日）
信託期間　：原則として無期限

組入資産の市場動向コメント

＜株式＞

2017年9月のグローバル株式市場は、上昇しました。グローバル株式指数の代表格であるMSCIオールカントリー・ワールド指数の月間騰落率は、+1.77%でした。

米国では、法人税減税などの税制改革案への期待や、FOMC後に長期金利が上昇したこと、原油価格が上昇したことなどを受け、エネルギーセクターが牽引する形で株式市場は上昇しました。欧州では、26日のECB理事会で金融緩和継続が決定されたことや、ユーロの上昇基調が一服したことなどを受け、株式市場は大きく上昇しました。為替市場で円安が進行したことを背景に、日本の株式市場も大きく上昇し、日経平均株価は2万円を回復しました。

＜債券＞

2017年9月のグローバル債券市場は、下落しました。米国で量的緩和縮小や追加利上げの見通しが示され、金利の上昇要因となりました。

米国債は、6日に連邦債務上限の一時的な適用停止が決定されたことや、20日のFOMCで保有資産の縮小が決定され、さらに年内の追加利上げが予想されたことなどを受け、下落しました。欧州債は、7日のECBで金融緩和政策の継続が決定され、一時的に上昇しましたが、ドラギ総裁が2018年以降の資産買い入れ縮小について言及したことや、ECBによるユーロ圏の成長率見通しが引き上げられたこと、英国で金融緩和の一部解除が予想されたことなどを受け、下落に転じました。日本国債は、欧米の金利上昇や、株式等のリスク資産を選好する動きの影響を受け、下落しました。

クレジット市場におけるクレジット・スプレッド(企業の信用力を示す、国債に対する上乗せ利回り)は、縮小しました。米経済指標や企業業績が堅調に推移する中、国債の下落により利回り差が縮小しました。

＜不動産投資信託（REIT）＞

2017年9月のREIT市場は、総じて下落しました。各国で長期金利が上昇したことが下落要因となりました。

米国のREIT市場は、月初に前月からの金利低下の流れを受けて上昇したものの、連邦債務上限の適用停止や税制改革案への期待から金利が上昇すると、下落に転じました。欧州のREIT市場は、長期金利の上昇を受けて小幅に下落しました。

日本のREIT市場は、長期金利が上昇したことや公募増資の発表が続いたことを受け、下落しました。用途別では住宅向けがアウトパフォームした一方、オフィス向け、商業・物流向けがアンダーパフォームしました。

＜ヘッジファンド市場全般＞

2017年9月のヘッジファンド市場は、上昇しました。オルタナティブ戦略の代表格であるヘッジファンド市場の値動きを示す、HFRX Global Hedge Fund Indexは、+0.6%となり、月次ベースでは11ヶ月連続の上昇となりました。戦略別では株式ロング・ショート戦略がアウトパフォームした一方、グローバル・マクロ戦略、CTA戦略はアンダーパフォームとなりました。

文責：GCIエンダウメントファンド運用チーム
インベストメント・マネジャー　上野　慎一郎

GCIエンダウメントファンド（成長型／安定型）
追加型投信／内外／資産複合

当初設定日：2015年 9月25日
作成基準日：2017年 9月29日
決算日　　：毎年9月25日
（休業日の場合は翌営業日）
信託期間　：原則として無期限

投資リスク

基準価額の変動要因

当ファンドは、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。したがって、**投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。なお、投資信託は預貯金とは異なります。**

当ファンドが有する主なリスク要因は以下の通りです。

株価変動リスク	株価は、発行者の業績、経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢などにより変動します。株価が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。
金利変動リスク	債券などの価格は、一般的に金利低下（上昇）した場合は値上がり（値下がり）します。なお、債券などが変動金利である場合、こうした金利変動による価格の変動は固定金利の場合と比べて小さくなる傾向があります。また、発行者・債務者などの財務状況の変化などおよびそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢などにより変動します。債券などの価格が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。
REITの価格変動リスク	REITの価格は、不動産市況（不動産稼働率、賃貸料、不動産価格など）、金利変動、社会情勢の変化、関係法令・各種規制などの変更、災害などの要因により変動します。また、REITおよびREITの運用会社の業績、財務状況の変化などにより価格が変動し、基準価額の変動要因となります。
為替変動リスク	為替相場は、各国の経済状況、政治情勢などの様々な要因により変動します。投資先の通貨に対して円高となった場合には、基準価額の下落要因となります。なお、当ファンドおよび投資対象ファンド（投資信託証券）において、外貨建資産について、為替予約を活用し、為替変動リスクの低減を図る場合がありますが、完全にヘッジすることはできませんので、外貨の為替変動の影響を受ける場合があります。また、為替ヘッジを行う通貨の短期金利と円短期金利を比較して、円短期金利の方が低い場合には、当該通貨と円の金利差相当分のコストがかかることにご留意ください。
信用リスク	有価証券等の発行体などが財政難、経営不振、その他の理由により、利払い、償還金、借入金などをあらかじめ決められた条件で支払うことができなくなった場合、またはそれが予想される場合には、有価証券等の価格は下落し、基準価額の下落要因となる可能性があります。
カントリーリスク	投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化などにより市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には、方針に沿った運用が困難となり、基準価額が下落することがあります。特に、新興国への投資には、先進国と比較して政治・経済および社会情勢の変化が組入銘柄の価格に及ぼす影響が相対的に高い可能性があります。
流動性リスク	時価総額が小さい、取引量が少ないなど流動性が低い市場、あるいは取引規制などの理由から流動性が低下している市場で有価証券等を売買する場合、市場の実勢と大きく乖離した水準で取引されることがあり、その結果、基準価額の下落要因となる可能性があります。
ヘッジファンドの運用手法に係るリスク	投資対象ファンド（投資信託証券）においては、直接もしくは実質的に現物有価証券、デリバティブや為替予約取引などの買建てや売建てによりポートフォリオを組成することがあり、買い建てている対象が下落した場合もしくは売り建てている対象が上昇した場合に損失が発生し、当ファンドの基準価額が影響を受け、投資元本を割り込むことがあります。また、投資対象ファンド（投資信託証券）の純資産総額を上回る買建て、売建てを行う場合があるため、投資対象ファンド（投資信託証券）の基準価額は現物有価証券に投資する場合と比べ大きく変動することがあり、投資元本を割り込むことがあります。また、ヘッジファンドのパフォーマンスは、通常、運用者の運用能力に大きく依存することになるため、市場の動向に関わらず、損失が発生する可能性があります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

ＧＣＩエンダウメントファンド（成長型／安定型）
追加型投信／内外／資産複合

当初設定日：2015年 9月25日
作成基準日：2017年 9月29日
決算日　　：毎年9月25日
（休業日の場合は翌営業日）
信託期間　：原則として無期限

投資リスク

その他の留意点

●収益分配金に関する留意事項

分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当など収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

●当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

GCIエンダウメントファンド（成長型／安定型）
追加型投信／内外／資産複合

当初設定日：2015年 9月25日
作成基準日：2017年 9月29日
決算日　　：毎年9月25日
（休業日の場合は翌営業日）
信託期間　：原則として無期限

手続・手数料等

お申込みメモ

購入単位	最低単位を1円単位または1口単位として販売会社が定める単位
購入価額	購入申込受付日の翌々営業日の基準価額
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。
換金単位	最低単位を1口単位として販売会社が定める単位
換金価額	換金申込受付日の翌々営業日の基準価額から当該基準価額の0.1%の信託財産留保額を控除した額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して7営業日目から販売会社を通じてお支払いします。
申込受付中止日	ニューヨークの銀行休業日またはニューヨーク証券取引所の休業日 ※詳しい申込受付中止日については、販売会社または委託会社にお問い合わせください。
申込締切時間	原則として午後3時までに販売会社が受け付けた分を当日のお申込み分とします。
購入の申込期間	平成29年6月27日から平成29年12月25日まで ※申込期間は、上記期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新されます。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口解約には別途制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受け付けた購入・換金のお申込みを取り消すことがあります。
信託期間	原則として無期限（平成27年9月25日設定）
繰上償還	受益権の総口数が10億口を下ることとなった場合などは、償還となる場合があります。
決算日	毎年9月25日（休業日の場合は翌営業日）
収益分配	年1回、毎決算時に委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して分配金額を決定します。
信託金の限度額	各ファンドについて10兆円
公告	原則として電子公告の方法により行い、委託会社のホームページにて行います。 URL：http://www.gci.jp/index2.html
運用報告書	毎決算時および償還時に交付運用報告書を作成し、販売会社を通じて知れている受益者に交付します。
スイッチング	販売会社によっては、各ファンド間でスイッチングが可能です。 ※スイッチングの際には換金時と同様に換金されるファンドに対して税金などをご負担いただきます。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」の適用対象です。 配当控除・益金不算入制度の適用はありません。

GCIエンダウメントファンド（成長型／安定型）
追加型投信／内外／資産複合

当初設定日：2015年 9月25日
作成基準日：2017年 9月29日
決算日　　：毎年9月25日
（休業日の場合は翌営業日）
信託期間　：原則として無期限

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入価額に1.08%（税抜1.0%）の率を乗じて得た額を上限として、販売会社が独自に定めるものとします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。	購入時手数料は、商品説明、募集・販売の取扱事務などの対価として、販売会社にお支払いいただくものです。
信託財産留保額	換金申込受付日の翌々営業日の基準価額に0.1%の率を乗じて得た額を、ご換金時にご負担いただきます。	

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）

運用管理費用（信託報酬）の総額は、計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に次に掲げる率（上限年率0.702%（税抜0.65%））の率を乗じて得た額とし、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のときに信託財産から支払われます。

<内訳（年率）>

純資産総額	運用管理費用（信託報酬）	委託会社	販売会社	受託会社
～500億円以下部分	0.702%（税抜0.65%）	0.324%（税抜0.3%）	0.324%（税抜0.3%）	0.054%（税抜0.05%）
500億円超～1,000億円以下部分	0.6264%（税抜0.58%）	0.2916%（税抜0.27%）	0.2916%（税抜0.27%）	0.0432%（税抜0.04%）
1,000億円超部分～	0.5508%（税抜0.51%）	0.2592%（税抜0.24%）	0.2592%（税抜0.24%）	0.0324%（税抜0.03%）
役務の対価	運用管理費用（信託報酬）＝運用期間中の基準価額×信託報酬率	当ファンドの運用、受託銀行への指図、基準価額の算出、目論見書・運用報告書などの作成など	購入後の情報提供、運用報告書など各種書類の送付、分配金・換金代金・償還金の支払い業務など	当ファンドの財産の管理、委託会社からの指図の実行など

投資対象ファンド（投資信託証券）における運用報酬等：年率0.489%～0.501%程度

※当ファンドにおいては成功報酬はかかりませんが、投資対象ファンド（投資信託証券）においては、上記の運用報酬等の他に成功報酬がかかる場合があります。成功報酬は運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することができません。

実質的な負担：年率1.191%～1.203%（税抜1.139%～1.151%）程度

※当ファンドの運用管理費用（信託報酬）に投資対象ファンド（投資信託証券）の運用報酬等を合わせた、投資者が実質的に負担する額の合計です。

その他の費用・手数料

<売買委託手数料など>

有価証券売買時の売買委託手数料、立替金の利息、ファンドに関する租税などが信託財産から支払われます。これらの費用は運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することができません。

<信託事務の諸費用>

監査費用、印刷費用、計理業務およびこれに付随する業務に係る費用などの諸費用が信託財産の純資産総額の年率0.1%を上限として日々計上され、毎計算期間の最初の6ヶ月終了日および毎計算期末または信託終了のときに信託財産から支払われます。

※詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

ＧＣＩエンダウメントファンド（成長型／安定型）
追加型投信／内外／資産複合

当初設定日：2015年 9月25日
作成基準日：2017年 9月29日
決算日　　：毎年9月25日
（休業日の場合は翌営業日）
信託期間　：原則として無期限

委託会社・その他の関係法人の概要

委託会社

株式会社ＧＣＩアセット・マネジメント
［ファンドの運用の指図を行う者］

金融商品取引業者：関東財務局長（金商）第436号
加　入　協　会：一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会

照会先

電　話　番　号　03（3556）5540（営業日の9:00～17:00）
ホームページ　http://www.gci.jp/index2.html

受託会社

三菱UFJ信託銀行株式会社
（再信託受託会社：日本マスタートラスト信託銀行株式会社）
［ファンドの財産の保管及び管理を行う者］

販売会社

商号		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	日本商品先物取引協会
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○	○
株式会社ＳＢＩ証券	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第 44 号	○		○	○	
株式会社新生銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第 10号	○		○		
髙木証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長（金商）第20号	○				
三田証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第175号	○				
共和証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第64号	○	○			

・ お申込み、投資信託説明書（交付目論見書）のご請求は、販売会社へお申し出ください。
・ 販売会社は今後変更となる場合があります。

<ご留意事項>

○ 当資料は、株式会社ＧＣＩアセット・マネジメント（以下「当社」といいます）が、当ファンドの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
○ 当ファンドのお申込みにあたっては、必ず最新の投資信託説明書（交付目論見書）の内容をご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
○ 当資料記載のデータや見通し等は、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
○ 当資料は、信頼できると考えられる情報をもとに作成しておりますが、正確性、適時性を保証するものではありません。
○ 当資料の内容は、作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
○ 当資料に記載されている個別の銘柄・企業名については、参考として記載されたものであり、その銘柄または企業の株式等の売買を推奨するものではありません。
○ 各指数に関する著作権等の知的財産、その他一切の権利は、各々の開発元または公表元に帰属します。
○ 当資料に関する一切の権利は、引用部分を除き当社に属し、いかなる目的であれ当資料の一部または全部の無断での使用・複製はできません。
○ 投資信託は預金保険制度の対象ではありません。また、銀行が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。